

ICUスタッフの手指衛生遵守への取り組み －アルコール擦式消毒剤の使用量UPを目指して－

大 池 祐 香 前 田 見

【はじめに】

ICUに入室する患者は急変を来す可能性の高い重篤な疾患を有しており、易感染の状況にある。感染を未然に防ぐためスタッフ全員が正しい手指衛生を理解し、感染防止に努める必要がある。H27年度アルコール擦式消毒剤の使用量が院内で推奨されている回数より低く、スタッフ全員が正しい知識を持って手指衛生ができていないことが考えられる。そこで、擦式消毒剤の携帯を徹底し、手指衛生への意識を高めるための活動を行った。

【方 法】

問題解決型QCストーリーに沿って活動を展開した。

患者一人あたりアルコール擦式消毒剤の使用回数40回／日、遵守率60%を目標に挙げ、直接監査及びアンケートを用いた意識調査の結果により活動を評価した。

【活動期間】

2016年7月～2017年1月

【結 果】

ICUの各ベッドサイドにはアルコール擦式消毒剤が設置されており、個人で携帯しているスタッフは44%であった。携帯しない理由として腰痛や肩がこるとの回答があった。手指衛生についての知識は確認できたが、擦式消毒剤使用量は患者一人あたり20回／日、遵守率は39.8%と低かった。

スタッフへの意識づけと行動変容に働きかけるため、勉強会、ロールプレイ、ポスター掲示、月毎のアルコール擦式消毒剤使用量の計測とフィードバックを行った。活動終了後のアンケート調査では、「自己の手指衛生について振り返ることができた」「清潔、不潔の意識が高まった」との意見があり、個人携帯は93%に増加した。呼びかけだけでは擦式消毒剤の使用量増加の維持が難しく、活動途中にスタッフよりさらに意見をもらい、要因解析を行った。新たな対策の立案には繋がらなかったが、当初の活動を継続した結果、使用量は40.6回／日（図1）、遵守率は53.5%に上昇した（図2）。

【考 察】

個別のアルコール擦式消毒剤を持つことで、使用回数や遵守率の増加につながったと考える。個人携帯率も増加し、習慣化することで腰痛や肩こり等大きな苦痛を感じることなく使用ができた。また、勉強会、ロールプレイ、使用量のフィードバックも意識や知識の向上につながり、有用であったと思われる。今後も取り組みを継続し、絶えず看護師の意識に働きかけていきたい。

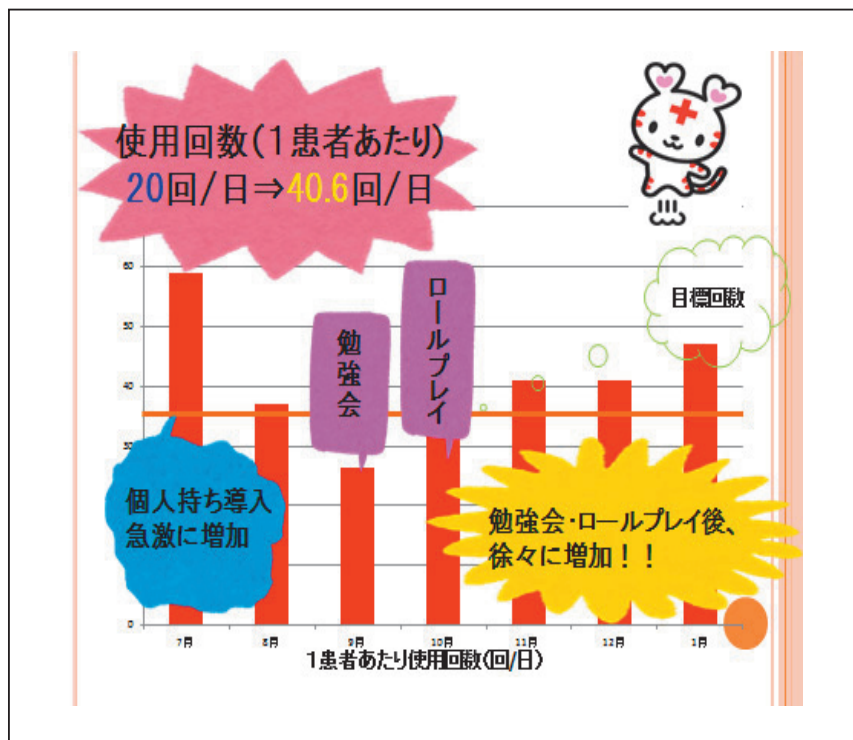


図 1

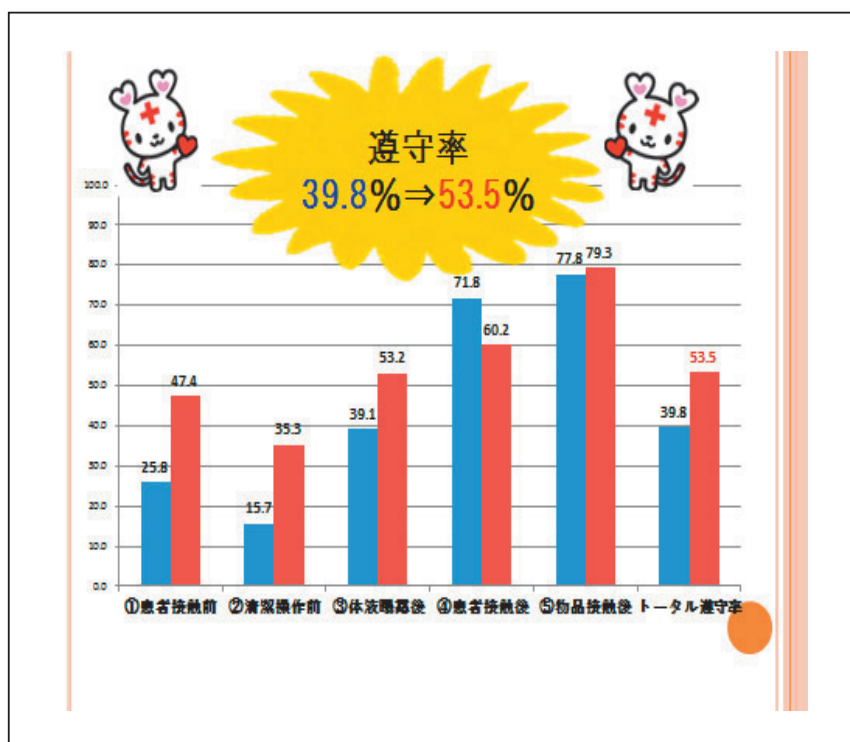


図 2